

取扱説明書

ホームシアターオーディオシステム

品番 SC-HTE180



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(3～5ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

VIERA Link

 **Bluetooth®**

目次

「安全上のご注意」を必ずお読みください。(→ 3～5ページ)

はじめに

同梱品	6
本機 (SC-HTE180)	6
付属品	6
各部の名前と働き	7
本体 (前面)	7
本体 (後面)	7
リモコン	8

準備する

設置する	9
本体の設置	9
他機器との干渉について	9
接続する	10
基本の接続	10
4K 映像を楽しむための接続	11
ブルーレイディスクレコーダーなどの機器を 接続する	12
その他の機器を接続する	12
電源コードを接続する	12
Bluetooth® を使って接続する	13
Bluetooth® 機器をワンタッチ (NFC) で接続する	14

楽しむ

テレビや映画、音楽を楽しむ	15
基本操作	15
3D サウンドの再生	16
サウンドモードについて	17
音声信号を確認するには	17
ビエラリンク (HDMI) を使う	18
準備する	18
ビエラリンク (HDMI) でできること	19
必要に応じて設定する	20

困ったときは？他

故障かな!?	24
仕様	26
本機で再生できるデジタル信号	27
著作権など	27
お手入れ	27
Bluetooth® 使用上のお願い	28
さくいん	29
保証とアフターサービス (よくお読みください)	30

本書内の表現について

- 本書内で参照していただくページを (⇒ ○○) で示しています。
- 本書では、本体およびリモコンの表示を [○○] で示しています。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては
気になるものです。適度の音量に
して隣り近所へ配慮しましょう。
特に静かな夜間には窓を閉めるの
も一つの方法です。



音のエチケット
シンボルマーク

安全上のご注意 (必ずお守りください)

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意

「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告

異常・故障時には直ちに使用を中止する

異常があったときには、電源プラグを抜く



- ・ 煙が出たり、異常なおいや音がする
- ・ 映像や音が出ないことがある
- ・ 内部に水や異物が入った
- ・ 電源プラグが異常に熱い
- ・ 本体に変形や破損した部分がある

**電源プラグ
を抜く**

そのまま使うと火災・感電の原因になります。

- 電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、販売店にご相談ください。

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど)



傷んだまま使用すると、感電や、ショートによる火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない



たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグのほこり等は定期的にとる



プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは、使わないでください。

雷が鳴ったら、本機や電源プラグに触れない



感電の原因になります。

接触禁止

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない



感電の原因になります。

ぬれ手禁止

警告

心臓ペースメーカーを装着している方は本機を装着部から 22 cm 以上離す



本機からの電波がペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

自動ドア、火災報知機などの自動制御機器の近くで使用しない



本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

病院内や医療用電気機器のある場所で使用しない



本機からの電波が医療用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない



ショートや発熱により、火災・感電の原因になります。

- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

コイン電池は、乳幼児の手の届くところに置かない



誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

長期使用を考慮して設置場所の強度を確保する



長期使用により設置場所の強度が不足すると落下してけがの原因になります。

分解、改造をしない



内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。

分解禁止

本取扱説明書で指示した以外の設置は行わない



落下したり、破損して、けがの原因になることがあります。

⚠ 注意

長期間使わないときや、お手入れのときは、電源プラグを抜く



電源プラグ
を抜く

通電状態で放置、保管すると、絶縁劣化、ろう電などにより、火災の原因になることがあります。

本機の上に指定のテレビ以外の物を載せたり、乗ったりしない



倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になることがあります。

コードを接続した状態で移動しない



接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。また、引っかかって、けがの原因になることがあります。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気、熱が当たるところ、エアコンの下などの水滴がかかるおそれのあるところに取り付けない



電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。

コイン電池は誤った使いかたをしない



- 指定以外の電池を使わない
- ⊕ と ⊖ は逆に入れない
- 加熱・分解したり、水などの液体や火の中に入れたりしない
- ネックレスなどの金属物といっしょにしない

取り扱いを誤ると、液もれ・発熱・発火・破裂などを起こし、火災や周囲汚損の原因になることがあります。

異常に温度が高くなるところに置かない



温度が高くなりすぎると、火災の原因になることがあります。

- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。
- また、外装ケースや内部部品が劣化する原因にもなりますのでご注意ください。

不安定な場所に置かない



- 高い場所、水平以外の場所、振動や衝撃の起こる場所に置かない

倒れたり落下すると、けがの原因になることがあります。

放熱を妨げない



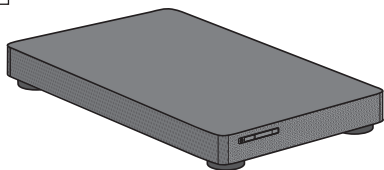
内部に熱がこもると、火災の原因になることがあります。

- 背面の通風孔をふさがないでください。
- また、外装ケースが変形する原因にもなりますのでご注意ください。

同梱品

本機 (SC-HTE180)

☐ 本体 (1 個)



付属品

付属品をご確認ください。

☐ リモコン (1 個)
(N2QAYC000101)

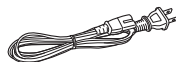
- お買い上げ時は、コイン電池が入っています。



☐ HDMIケーブル (1 本)(1.5m)
(K1HA19CY0001)



☐ 電源コード (1 本)
(K2CA2YY00269)



- 付属品の品番は、2014 年 3 月現在のものです。変更されることがあります。
- 電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
- 包装材料などは商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- 小物部品については乳幼児の手の届かないところに適切に保管してください。
- イラストと実物の形状は異なっている場合があります。

付属品は販売店でお買い求めいただけます。

パナソニックの家電製品直販サイト「パナソニック ストア」でお買い求めいただけるものもあります。

詳しくは「パナソニック ストア」のサイトをご覧ください。

<http://jp.store.panasonic.com/>

パナソニックグループのショッピングサイト



Panasonic Store

Panasonic
Smart
App

パナソニックスマートアプリについて

パナソニック商品を、スマートフォンで快適に使うための統合アプリです。

- このアプリを使うと、本機にスマートフォンをタッチする等の方法で簡単にご愛用者登録ができます。
- スマートフォンに取扱説明書を簡単にダウンロードできます。

パナソニックスマートアプリ
のダウンロード方法や使い方

はこちら

<http://panasonic.jp/pss/ap/>



各部の名前と働き

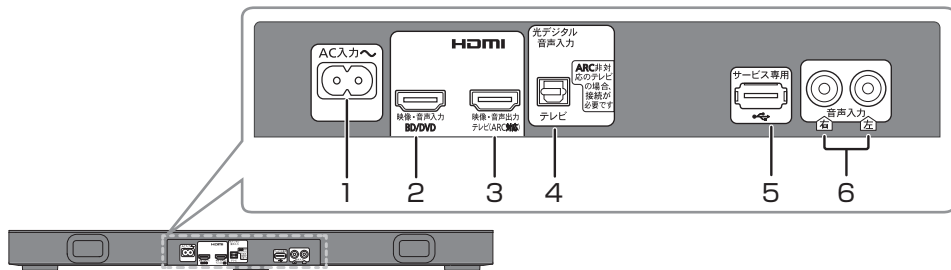
本体(前面)



- | | |
|--|--|
| <p>1 リモコン受信部 (⇒ 8)</p> <p>2 表示部</p> <p>3 NFC タッチエリア [] (⇒ 14)</p> <p>4 電源ボタン (⇒ 15)</p> <p>5 音量ボタン (⇒ 15)</p> | <p>6 入力切換ボタン (押すたびに切り換わります) (⇒ 15)</p> <ul style="list-style-type: none">● TV: テレビの音声を聴く● BD/DVD: HDMI 入力端子 (BD/DVD) に接続された機器の音声を聴く● AUX: 音声入力端子 (外部) に接続された機器の音声を聴く● BLUETOOTH: 本機に接続された Bluetooth® 機器の音声を聴く |
|--|--|

はじめて

本体(後面)

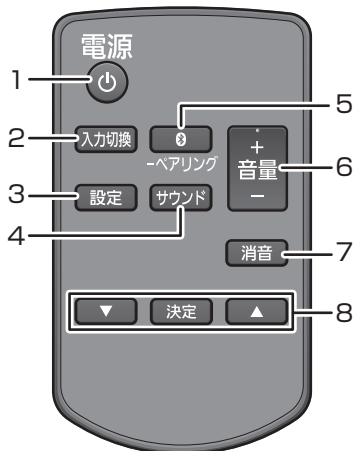


- | | |
|--|---|
| <p>1 AC 入力端子 (AC 入力～) (⇒ 12)</p> <p>2 HDMI 映像・音声入力端子「BD/DVD」 (⇒ 12)</p> <p>3 HDMI 映像・音声出力端子「テレビ (ARC 対応)」 (⇒ 10, 11)</p> | <p>4 光デジタル音声入力端子「テレビ」 (⇒ 11)</p> <p>5 USB 端子 (サービス専用*)</p> <p>6 外部入力端子 (⇒ 12)</p> |
|--|---|

※ USB 端子は、修理業者が本機の修理サービスを行う場合にのみ使用します。通常は使用しません。

リモコン

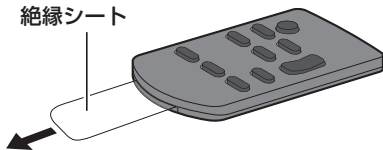
本書ではリモコンの操作を中心に説明しています。



- 1 電源ボタン (⇒ 15)
- 2 入力切替ボタン (⇒ 15)
 - テレビの音声を聴く
 - HDMI 入力端子 (BD/DVD) に接続された機器の音声を聴く
 - 音声入力端子 (外部) に接続された機器の音声を聴く
 - 本機に接続された Bluetooth® 機器の音声を聴く
- 3 設定ボタン (⇒ 20, 21, 22)
(押すたびに DIMMER、AUTO POWER DOWN、VOL LIMITATION、BLUETOOTH STANDBY、LINK MODE、VIERA LINK の順で切り換わります)
 - LINK MODE は、BLUETOOTH READY のときのみ表示される
- 4 サウンドボタン (⇒ 16, 17, 20, 22, 23)
(押すたびに SOUND MODE、SUBWOOFER、MEIRYOU VOICE、H.BASS、3D CLR DIALOG、DUAL AUDIO、AGC、LOW VOL MODE の順で切り換わります)
 - MEIRYOU VOICE は、3D CLR DIALOG が ON のときのみ表示される
- 5 Bluetooth® ボタン (⇒ 13)
 - 本機に接続された Bluetooth® 機器の音声を聴く
- 6 + 音量 - ボタン (⇒ 15, 23)
- 7 消音ボタン (⇒ 15, 21, 23)
- 8 決定ボタン (⇒ 16, 17, 20, 21, 22, 23)
(設定画面などで選んで決定する)

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。

絶縁シート



- 引き抜いた絶縁シートは、適切に処理をしてください。

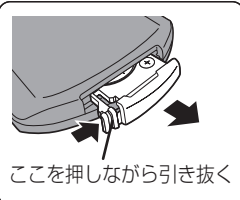
■ コイン電池を交換する

- ① ホルダーを引き抜く

底面

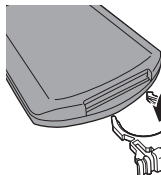


ホルダー



ここを押しながら引き抜く

- ② 電池を入れてホルダーを戻す



コイン電池
(CR2025)

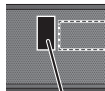
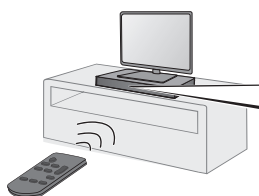
+マークを上にする

- 電池を廃棄する場合は、不燃ゴミとして処理してください。(または、地方自治体の条例に従ってください)

- リモコンは下記の受信範囲内で使用してください。

リモコン受信部 受信範囲

正面 約7 m以内
上下 各約20°
左右 各約30°



リモコン受信部

設置する

本体の設置

- 本機は平らで水平な場所に設置してください。

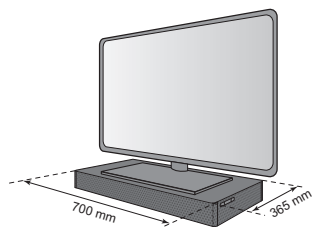
設置不備による事故、損傷については、当社は責任を負いません。

本取扱説明書で指示した以外の設置は行わないでください。

- 本体を持ち運ぶときは、必ず両手で持って運んでください。片手で持つと落下するおそれがあります。

■ テレビの下に置く

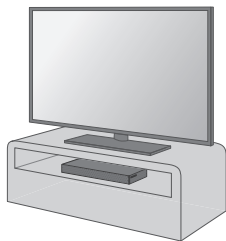
テレビが 50 kg 以下で、テレビ台が 700 mm(幅)、365 mm(奥行) 以下の場合に、本機の上にテレビを置くことができます。



■ ラックやテレビの横に置く

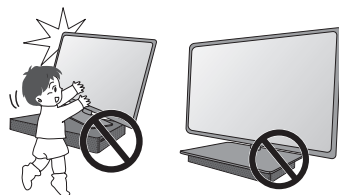
本機をテレビの横（右側をお勧めします）やラックなどに置くことができます。

- 本機の転倒・落下を防ぐために、転倒・落下防止（市販品）を用いて取り付けることをお勧めします。



△ 注意

本機の上にテレビを設置する場合は、テレビが傾いたり曲がったりしないように置いてください。倒れたり、こわれたりしてけがの原因になることがあります。



- テレビに付属の転倒・落下防止部品を使用して固定してください。据え付けは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- テレビを動かす場合は、本機を傷つけないように必ず両手で持ち上げてください。

他機器との干渉について

電波の干渉を避けるため、本機と同じ周波数（2.4 GHz 帯）の他の電気機器とは下記の距離を置いてください。



無線LANなど: 約 2 m

お知らせ

- 本機を金属製の棚などに設置しないでください。
- テレビに色ムラが生じる場合は、テレビの電源を約 30 分切ってください。それでも直らない場合は、本機をテレビと離して設置してください。
- 本機に磁気カードや時計など磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。磁気カードや時計などが正常に動作しなくなることがあります。

接続する

- 接続するときは、各機器の電源を切ってください。
 - 接続するテレビや各機器の取扱説明書もご覧ください。
- すべての接続が完了するまで、各機器の電源コードをコンセントに接続しないでください。

お知らせ

付属以外の HDMI ケーブルをご使用される場合

- HDMI ケーブルは「High Speed HDMI ケーブル」をお買い求めください。HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

本機は 3D に対応しています

- 3D 対応テレビ、3D 対応のブルーレイディスクレコーダー/プレーヤーを本機に接続して、市販のブルーレイ 3D ディスクなどを迫力ある 3D 映像でお楽しみいただけます。

基本の接続

1 テレビの HDMI 入力端子に「ARC 対応」の表示があるかを確認する

- 「ARC 対応」の表示がある場合とない場合では、接続が異なります。

「ARC 対応」表示あり：A の接続

「ARC 対応」表示なし：B の接続 (⇒ 11)

お知らせ

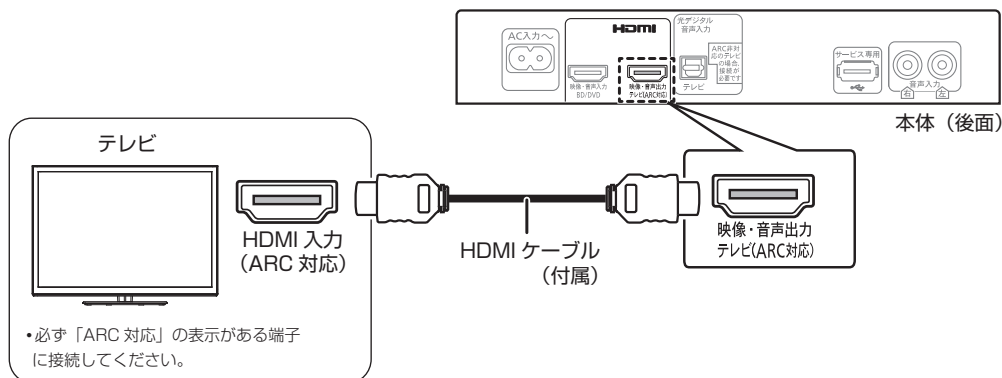
ARC とは？

オーディオ リターン チャンネル

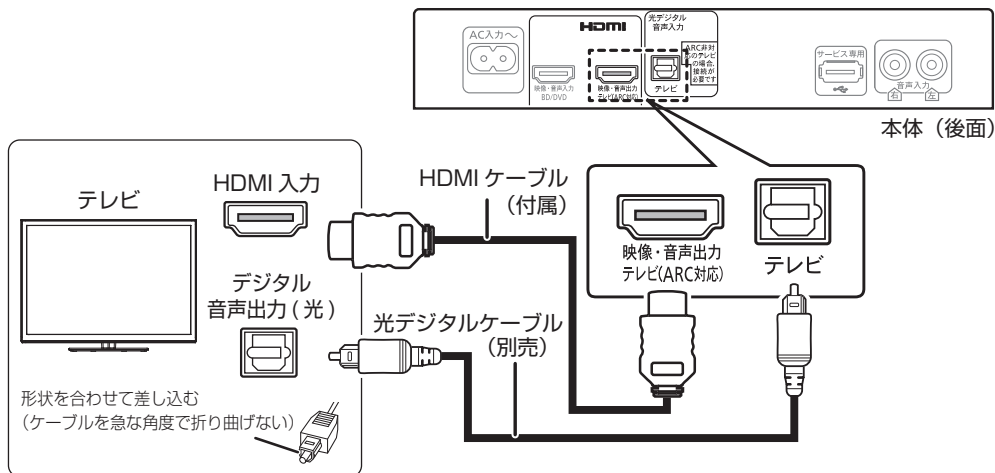
- ARC とは Audio Return Channel の略称で、HDMI ARC とも呼ばれ、HDMI が持つ機能の一つです。「ARC 対応」と書かれた端子と本機を HDMI 接続すると、従来テレビからの音声を聴くために必要だった光デジタルケーブルが不要になり、HDMI ケーブル 1 本でテレビの映像と音声を楽しめるようになります。
- 他社製テレビで、ARC 対応であるにもかかわらず音声が本機に出力されないときは、光デジタルケーブルが必要な場合があります。テレビの取扱説明書をご覧ください。

2 接続する

A 「ARC 対応」表示あり

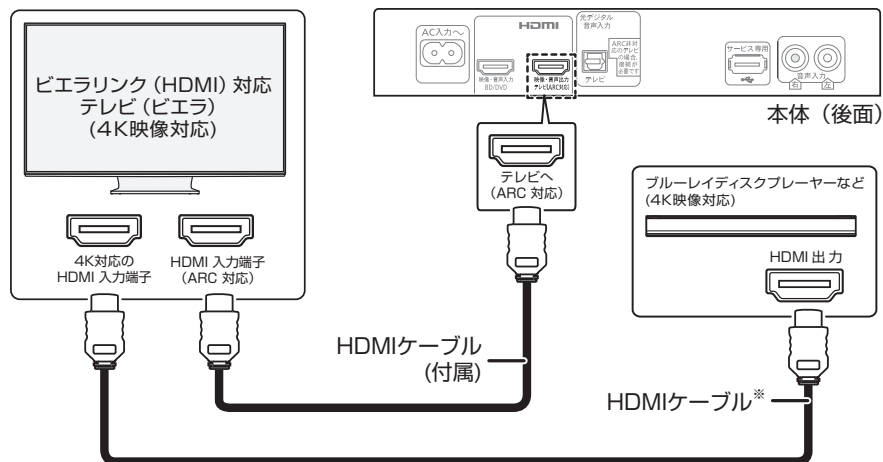


B 「ARC 対応」表示なし



4K映像を楽しむための接続

本システムは4K映像信号を通すことができませんが、下記のように接続をすることにより、テレビ（ビエラ）で4K映像を楽しむことができます。



※ 上記の方法で 4K/60p 映像を楽しむ場合には、4K/60p 対応の再生する機器およびテレビ（ピエラ）の説明書も併せてご参照ください。

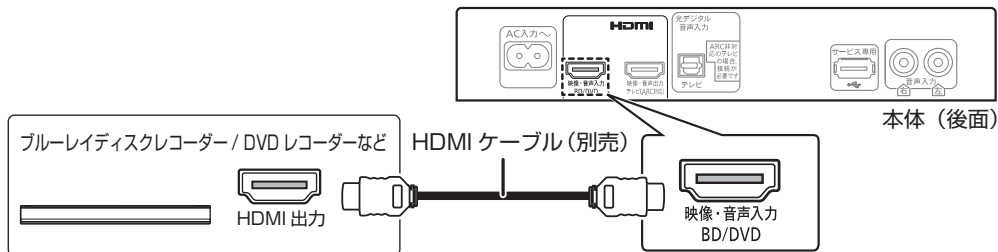
- 本システムでマルチチャンネル再生を楽しむ場合は、レコーダーやプレーヤーの音声出力からビットストリーム / Bitstream が出力される設定にしてください。
- 上記の接続をした場合、本システムに入力される音声信号は最大 5.1 チャンネルです。

ブルーレイディスクレコーダーなどの機器を接続する

ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなどの機器を接続することができます。

準備する

- 本機をテレビと接続する。(⇒ 10, 11)



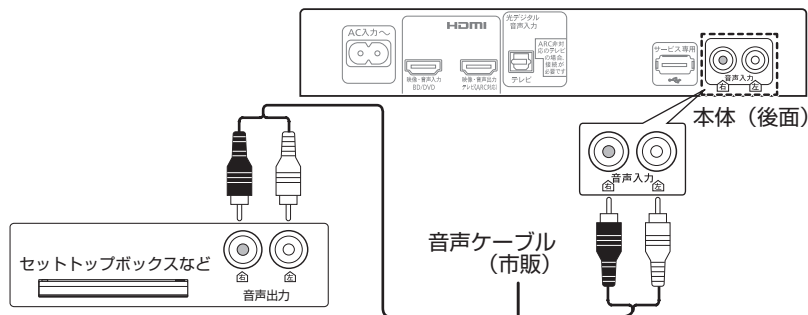
お知らせ

スタンバイパスルー機能

- 接続している HDMI 対応機器 (ブルーレイディスクレコーダーや DVD レコーダーなど) の映像や音声は本機電源「切」時でも本機を通過してテレビへ伝送されます。

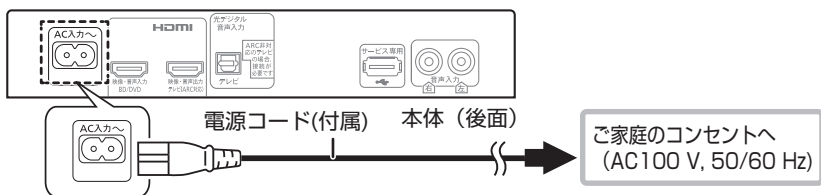
その他の機器を接続する

ブルーレイディスクレコーダー、DVD レコーダー、ゲーム機やセットトップボックスなどの機器を接続することができます。



電源コードを接続する

- 電源コードは必ず最後に接続してください。



- 本機は、スタンバイ時でも電力を消費しています (⇒ 26)。長期間使用しないときは、節電のために電源プラグを抜いておくことをお勧めします。電源プラグを抜くときは、必ず先に本機の電源を切ってください。

Bluetooth® を使って接続する

本機は Bluetooth® (ブルートゥース) 技術を使用していますので、Bluetooth® に対応したスマートフォンなどの音楽をワイヤレスで楽しむことができます。

準備する

接続したい機器の Bluetooth® 機能を有効にして、本機に近づける。

- Bluetooth® 機器は本機から約 10 m 以内でお使いください。
- NFC (近距離無線通信) 対応の Bluetooth® 機器をご使用の場合は、「ワンタッチ (NFC) 接続する」(⇒ 14) をご覧ください。

Bluetooth® 機器を登録する

1 [電源 〇/I] またはリモコンの [電源 〇] を押して、電源を入れる

2 リモコンの [Bluetooth] を押して「BLUETOOTH」を選ぶ

- 「PAIRING」が表示された場合は手順 4 に移行してください。

3 「PAIRING」が表示されるまでリモコンの [Bluetooth] を押したままにする

4 Bluetooth® 機器側で Bluetooth® の接続画面などを開き、機器名 (SC-HTE180) を選んで接続する

- Bluetooth® 機器に付属されている説明書などもお読みください。
- バスキーの入力を要求された場合は「0000」(ゼロ 4 つ) を入力してください。
- 本機と Bluetooth® が接続されると、接続された機種名が表示されます。

登録済みの Bluetooth® 機器を接続する

準備する

Bluetooth® 機器が接続されている場合は、接続を解除してください。(⇒ 下記)

1 リモコンの [Bluetooth] を押して Bluetooth® モードにする

- 「BLUETOOTH READY」が表示されます。

2 Bluetooth® 機器側で Bluetooth® の接続画面などを開き、機器名 (SC-HTE180) を選んで接続する

- 接続された機器名が表示されます。

■ 接続を解除するには

「BLUETOOTH READY」が表示されるまで、リモコンの [Bluetooth] を押したままにする。

お知らせ

- 「BLUETOOTH」を選択すると、本機は最後に接続していた Bluetooth® 機器と接続しようとします。
- 本機が他の入力を選択した場合、Bluetooth® 機器との接続が解除されます。
- 本機に登録できる Bluetooth® 機器は最大 8 台です。最大登録数を超過して登録すると、接続した順番が古いものから上書きされるため、Bluetooth® 機器の登録が消去されることがあります。再度、お使いいただくには登録をやり直してください。
- 同時に接続できる Bluetooth® 機器の台数は 1 台です。
- Bluetooth® 機器に付属されている説明書などもお読みください。
- Bluetooth® の通信速度を切り換えるには、21 ページの「Bluetooth® の通信速度の切り換え」を参照してください。
- 推奨する Bluetooth® 対応機器の最新のサポート情報は、下記サポートサイトをご確認ください。
<http://panasonic.jp/support/audio/>

Bluetooth® 機器をワンタッチ（NFC）で接続する

NFC 対応 Android™ 機器のみ

NFC（近距離無線通信）機能に対応した Bluetooth® 機器を本機にタッチするだけで、自動的に本機の電源が入り、Bluetooth® 機器の登録から接続完了まで一度に行えます。すべての操作を簡単に行えるので大変便利です。

準備する

機器側の NFC 機能を有効にする。

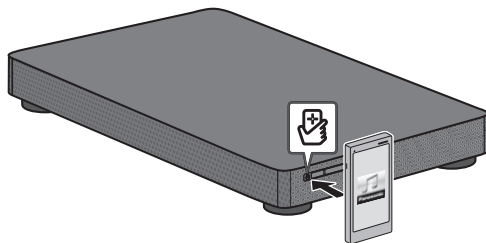
1 Google Play™ から専用アプリ「Panasonic Music Streaming」（無料）をダウンロードし、アプリを起動する

- アプリ画面の指示に従って、設定してください。
- 専用アプリは常に最新バージョンをお使いください。

2 本機の NFC タッチエリアに Bluetooth® 機器をタッチする（機器の画面に接続完了のポップアップが表示されるまで）

機器が本機を認識すると電子音が鳴ります。

- 機器が登録され、接続が完了すると、「BLUETOOTH」が表示されます。機器の登録、接続が終わったら、本機から遠ざけてください。
- 「BLUETOOTH READY」が表示される場合は、タッチ位置を変えてください。



3 Bluetooth® 機器側で、音楽や動画を再生する

- 接続完了後、「Bluetooth® の通信速度の切り換え」（⇒ 21）に進んでください。

■ 他の機器と接続するには

別の機器を本機にタッチすると、Bluetooth® 接続が更新されます。

- 接続中の機器は自動的に接続が解除されます。

接続を解除する

- 本機またはお使いの機器の電源を切る。
- お使いの機器側で Bluetooth® での送信を中止、または無効にする。

お知らせ

- ワンタッチ（NFC）接続は機器によって作動しない場合があります。
- ワンタッチ（NFC）接続ができない場合は、Bluetooth® 機器の NFC が有効になっているか確認してください。

テレビや映画、音楽を楽しむ

基本操作

準備する

本機をテレビと接続して、テレビの電源を入れる。



1 [電源 〇] を押して、本機の電源を入れる

- 設定や動作が分からなくなった場合は一度お買い上げ時の状態に戻してください (⇒ 24)

2 [入力切換] を押し、接続している機器を選ぶ

- [入力切換] を押すたびに、TV、BD/DVD、AUX、BLUETOOTH の順で入力切り換わります。

■ 「BD/DVD」を選択した場合

テレビの入力を、本機を接続している入力に切り換える。

本機に接続している機器で再生の操作をする。

■ 「BLUETOOTH」を選択した場合

本機に接続している Bluetooth® 機器で再生の操作をする。13 ページの「Bluetooth® 機器を登録する」を参照してください。

3 [+ 音量 -] を押し、本機の音量を調整する

- 調整範囲：0 (最小) ～ 100 (最大)

■ 一時的に音を消すには

[消音] を押す (もう一度押すと解除されます)

- 「MUTE」が本機画面に表示されます。

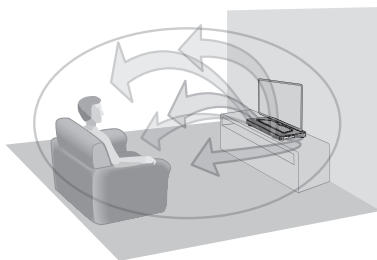
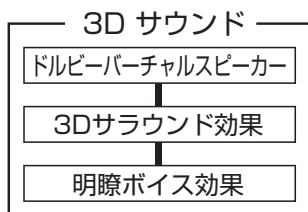
お知らせ

- テレビのスピーカーからも音が出ている場合があります。その場合は、テレビの音量を最小にしてください。
- テレビと本機の音量の最大値が異なる場合があります。
- 電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます (音量制限機能)。この設定は解除することもできます。(⇒ 20)
- HDMI 映像・音声入力端子 (BD/DVD) に接続した機器を再生中に、映像・音声をテレビに切り換えるときは、テレビの入力をテレビチューナーに切り換えてください。ピエラリンク (HDMI) (⇒ 18) が有効でない場合は、本機の入力もテレビに切り換えてください。

3D サウンドの再生

本機では、映像と一体になった臨場感あふれる音場を楽しむことができます。お買い上げ時の設定では、すべての入力音声に対し、3D サウンドの効果が働きます。

(3D サウンド再生のイメージ図)



■ ドルビーバーチャルスピーカー

後方にスピーカーを設置しなくても、5.1 チャンネルのようなサラウンド効果を得ることができます。

■ 3D サラウンド効果

ドルビーバーチャルスピーカーに加え、上下 / 前後方向の音場を広げ、3D 映像にもマッチした奥行感や迫力のある音を実現しています。

■ 明瞭ボイス効果

テレビ画面の方向からドラマのセリフやスポーツ中継の解説などの音声聴こえるため、映像と一体感のある音が楽しめます。また、通常の音量時だけでなく、周囲への騒音が気になる夜間などの小音量時でも、セリフの聴き取りやすさを失わずに音声を楽しむことができます。

- ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サラウンド効果については、サウンドモード (⇒ 17) を変更することで、効果を変えたり有効または無効にすることもできます。
- 3D サラウンド効果および明瞭ボイス効果を無効にし、ドルビーバーチャルスピーカーのみ適応させることができます。(⇒ 22)
- 明瞭ボイス効果は効果のレベルを調整することができます。(⇒ 下記)

明瞭ボイスの効果のレベルを調整する

人の声をより強調して聴き取りたい場合などに、「MEIRYOU VOICE」でボイス効果のレベルを変更することができます。

準備する

「3D CLR DIALOG」が有効になっているか確認する。(⇒ 22) (お買い上げ時の状態は「入」です。)



1 リモコンの [サウンド] を押して「MEIRYOU VOICE」を選ぶ

2 [▲, ▼] を押してレベルを選び、[決定] を押す

- 調整範囲：レベル1～4 (お買い上げ時の設定はレベル2です)
- 「3D CLR DIALOG」を無効にしている場合 (⇒ 22) は、「MEIRYOU VOICE」は表示されません。

サウンドモードについて

サウンドモードを切り換えることで、テレビ番組や接続された機器からの映像に適した音場効果を楽しむことができます。

1 リモコンの [サウンド] を押して「SOUND MODE」を選ぶ

2 [▲,▼]を繰り返し押して好みの設定を選び、
[決定] を押す

- 押すたびにサウンドモードが切り換わります。
- 各サウンドモードは約 20 秒間表示されます。



サウンドモード	
STANDARD	ドラマやバラエティなどに最適なモードです。
STADIUM	スポーツ中継などを臨場感のある音で楽しめます。
MUSIC	楽器や歌を広がりのある音で楽しめます。
CINEMA	映画ならではの立体感や迫力のある音を楽しめます。
NEWS	解説や実況などが聞き取りやすくなります。
STEREO	ドルビーバーチャルスピーカーと 3D サウンド効果が無効になり、すべての音声がステレオ出力になります。

※ サウンドモードが「STANDARD」または「NEWS」のときは、本機の消費電力が抑えられます。(⇒ 23)

音声信号を確認するには

下記の操作で本機が接続先の機器から受信している音声信号を確認することができます。

リモコンの [サウンド] を 4 秒以上押したままにする

DOLBY DIGITAL	音声信号がドルビーデジタル
DTS	音声信号が DTS
PCM MULTI	音声信号が PCM マルチ
PCM	音声信号が PCM
ANALOG	音声信号がアナログ
AAC	音声信号が AAC
SBC	音声信号がサブバンド符号化 (Bluetooth® モードのみ)

- 各音声信号は約 2 秒間表示されます。

ビエラリンク (HDMI) を使う

ビエラリンク (HDMI)(HDAVI Control™) とは

本機と HDMI ケーブル(付属または別売)を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、リモコン1つで簡単に操作できる機能です。各機器の詳しい操作については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

※すべての操作ができるものではありません。

お知らせ

- ビエラリンク (HDMI) は、HDMI CEC (Consumer Electronics Control) と呼ばれる業界標準の HDMI によるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。
- 本機はビエラリンク (HDMI) Ver.5 に対応しています。ビエラリンク (HDMI) Ver.5 とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した当社基準です。
- お使いのテレビがビエラリンク (HDMI) 対応か分からないときは、機器にビエラリンク (HDMI) のロゴマーク (⇒ 表紙) が付いているかをお確かめになるか、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

準備する

1 本機とビエラリンク (HDMI) に対応した当社製テレビ (ビエラ) とレコーダー (ディーガ) を HDMI ケーブルで接続する (⇒ 10 ~ 12)

- HDMI 規格に準拠していないケーブルでは動作しません。

2 テレビ (ビエラ) 以外のすべての機器の電源を入れ、最後にテレビの電源を入れる

3 テレビ (ビエラ) の設定を以下のように変更する (機器によって表示が異なる場合があります)

①「電源オン時の音声出力」を「シアター」にする

(操作の一例) メニュー画面より「設定する」→「初期設定」→「接続機器関連設定」→「ビエラリンク (HDMI) 設定」→「電源オン時の音声出力」と進み、「シアター」を選ぶ

②「音声をシアターから出す」を選ぶ

(操作の一例) ビエラリンクボタンを押し、「音声をシアターから出す」を選ぶ

③「サウンド」を「オート」にする

(操作の一例) ビエラリンクボタンを押し、「シアターサウンドを切り換える」を選び、「サウンド」を「オート」にする

- テレビ (ビエラ) によって操作は異なります。詳しくはテレビ (ビエラ) の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
- 「サウンド」を「オート」に設定できるのは、ビエラリンク (HDMI) Ver.3 以降に対応のテレビ (ビエラ) のみです。

HDMI 入力端子に機器を接続している場合は、下記 4、5 も行ってください。

4 テレビ (ビエラ) の入力を切り換え、本機を接続した HDMI 入力を選ぶ

5 HDMI 映像・音声入力端子 (BD/DVD) に接続した機器の再生を開始し、本機の入力を BD/DVD に切り換え、画像が正しく映ることを確認する

お知らせ

- 各機器がビエラリンク (HDMI) を有効にする設定になっているか確認してください。
- 機器を追加したときや接続しなおしたとき、工場出荷設定に戻したとき (⇒ 24) にも上記の操作を行ってください。

ビエラリンク (HDMI) でできること

テレビ (ビエラ) のリモコンで行う操作です
必ず 18 ページの「準備する」を先に行ってください

- テレビ (ビエラ) によって操作は異なります。詳しくはテレビ (ビエラ) の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

本機の電源を自動で「入 / 切」する

テレビ (ビエラ) の電源を「入」にすると、本機の電源も入ります。(「切」にすると、本機の電源も切れます。)

テレビ (ビエラ) から音声を出すか、本機から音声を出すかを切り換える

テレビ (ビエラ) から音声を出すときは、テレビ (ビエラ) で「音声をテレビから出す」を選択します。

- ビエラリンク (HDMI) Ver.4 以降に対応の当社製テレビ (ビエラ) と組み合わせる場合は、テレビから音声を出すように切り換えたとき、自動的に本機の電源を切る設定もできます。(こまめにオフ機能)

本機から音声を出すときは、テレビ (ビエラ) で「音声をシアターから出す」を選択します。

本機の音量調整、消音をする

テレビ (ビエラ) のリモコンで本機の音量調整、消音ができます。

- 音量表示は、ビエラリンク (HDMI) Ver.5 以降に対応の当社製テレビ (ビエラ) で表示されます。

サウンドモードを自動で切り換える (番組ぴったりサウンド)

ビエラリンク (HDMI) 対応の接続機器でデジタル放送の番組を視聴または再生中、DVD、CD、SD などを再生中に、そのソースサウンドを自動で切り換えることができます。この機能を使うには、テレビ (ビエラ) の「サウンド」を「オート」にしてください。(⇒ 18)

- 手でテレビ (ビエラ) の「サウンド」を変更して、本機のサウンド効果を連動して切り換えることもできます。
- テレビ (ビエラ) の「サウンド」が切り換わると、本体のサウンドモードも切り換わります。
- 番組ぴったりサウンドは、ビエラリンク (HDMI) Ver.3 以降に対応の当社製テレビ (ビエラ) で動作します。
- 接続した機器側で、自動的にサウンドを切り換えるかどうかの設定ができます。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

番組のジャンルに合わせて消費電力を抑える (番組連動おまかせエコ)

音量の変化が少ない番組 (ドラマ、バラエティ、ニュースなど) の視聴時、自動的に消費電力を抑えます。

- 番組連動おまかせエコは、ビエラリンク (HDMI) Ver.3 以降に対応の当社製テレビ (ビエラ) で動作します。

本機の入力を自動で切り換える

テレビ (ビエラ) のリモコンでチャンネル選択などの操作を行うと、本機の入力はテレビになります。

HDMI 映像・音声入力端子 (BD/DVD) に接続した機器で再生などの操作を行うと、本機の入力は BD/DVD になります。

お知らせ

- ビエラリンク (HDMI) 対応のレコーダー (ディーガ) も接続している場合、テレビ (ビエラ) の電源をリモコンで切ると、レコーダー (ディーガ) の電源も自動的に「切」になります。
- ビエラリンク (HDMI) Ver.4 以降に対応の当社製テレビ (ビエラ) との組み合わせの場合は、本機の電源を入れたとき、テレビ (ビエラ) が「音声をシアターから出す」設定になります。
- ビエラリンク (HDMI) Ver.3 以降に対応している当社製テレビ (ビエラ) と接続時に、映像が音声よりも遅れている場合に、自動的に音声を遅らせて映像に近づけます。(オートリップシンク)

必要に応じて設定する

本機を使ってテレビ、映画、音楽をお楽しみいただくにあたり、通常以下の操作は必要ありません。
お使いいただく状況に応じて、必要に応じて設定してください。

■ 二重音声放送の切り換え (DUAL AUDIO)

下記の操作で二重音声放送の主音声、副音声を切り換えることができます。

- ① テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム (AAC) に設定されていることを確認する (⇒ 17)
- ② リモコンの [サウンド] を押して「DUAL AUDIO」を選ぶ
- ③ [▲, ▼] を押して「MAIN」(主音声)、「SUB」(副音声) または「MAIN + SUB」(主音声と副音声) を選び、「決定」を押す

■ 音量オート機能 (AGC)

入力信号があるレベル以上になると、出力を下げ、急激な音量差を抑える機能です。下記の操作で有効、無効を切り換えることができます。

- ① リモコンの [サウンド] を押して「AGC」を選ぶ
 - ② [▲, ▼] を押して「ON」または「OFF」を選び、「決定」を押す
- 音量オート機能により、音声が悪聴取りにくく感じられるような場合には、この機能を無効に設定してください。

■ サブウーハー (SUBWOOFER)

本機は音源によって最適な設定を自動的に選択します。

サブウーハーのレベルを下記の操作で変更することができます。

- ① リモコンの [サウンド] を押して「SUBWOOFER」を選ぶ
 - ② [▲, ▼] を押してレベルを選び、「決定」を押す
- 調整範囲：レベル1～4
2 チャンネル音源の初期設定は「LEVEL2」、マルチチャンネル音源の初期設定は「LEVEL3」です。

■ 表示部の明るさを変える (DIMMER)

5 秒以上の無操作状態が続くと表示部が暗くなる機能です。

下記の操作で有効、無効を切り換えることができます。

- ① リモコンの [設定] を押して「DIMMER」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「ON」または「OFF」を選び、「決定」を押す

■ 音量制限機能 (VOL LIMITATION)

過大出力を制限する音量制限機能です。この機能を使うと、電源「切」時に 50 を超えた音量になっていた場合は、次回電源「入」時には音量が 50 に設定されます。

下記の操作で有効、無効を切り換えることができます。

- ① リモコンの [設定] を押して「VOL LIMITATION」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「ON」または「OFF」を選び、「決定」を押す

■ BLUETOOTH スタンバイ (BLUETOOTH STANDBY)

この機能を有効にしているとき、登録済みの Bluetooth® 機器から Bluetooth® 接続すると、自動的に本機の電源が入るようになります。

下記の操作で有効、無効を切り換えることができます。

- ① リモコンの [設定] を押して「BLUETOOTH STANDBY」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「ON」または「OFF」を選び、[決定] を押す

■ Bluetooth® の通信速度の切り換え (LINK MODE)

Bluetooth® の通信速度を切り換えることができます。下記の操作で初期設定のモード 2(音質重視)またはモード 1(接続性重視)に切り換えることができます。「BLUETOOTH」が表示した場合は、Bluetooth® 機器の接続を切ってください。「BLUETOOTH READY」が表示されます。(⇒ 13)

- ① リモコンの [設定] を押して「LINK MODE」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「MODE 1」または「MODE 2」を選び、[決定] を押す

■ リモコンモードの切り換え

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまうときは、下記の操作を行い、本機とリモコンを、「リモコンモード 2」または、「リモコンモード 1」に設定してください。

- ① 他の当社製オーディオ製品の電源を切る
- ② 本機の電源を入れる
- ③ リモコンを本機のリモコンセンサーに向ける

● 「リモコンモード 2」に設定する

リモコンの [消音] と [決定] を 4 秒以上押したままにする
「REMOTE 2」と表示されます。

● 「リモコンモード 1」に設定する

リモコンの [消音] と [▼] を 4 秒以上押したままにする
「REMOTE 1」と表示されます。

お知らせ

- 押すごとに設定が切り換わります。操作後約 20 秒で通常の表示に戻ります。
- 設定は再度切り換えるまで保持されます。

お買い上げ時に「入」になっている機能を「切」にするには

お買い上げ時には、以下の機能が働くようになっています。お使いいただく状況に応じて、これらの機能を「切」にすることもできます。

■ ビエラリンク (HDMI)(HDAVI Control™)(VIERA LINK)(⇒ 18)

他社製 HDMI 対応機器との接続時に動作が不安定になる場合などに、下記の操作で비에라링크 (HDMI) を使わない設定にできます。

- ① リモコンの [設定] を押して「VIERA LINK」を選ぶ
 - ② [▲, ▼] を押して「OFF」を選び、「決定」を押す
 - ③ 設定変更後に、接続しているすべての機器の電源を「切 / 入」する
- ビ에라링크 (HDMI) を使わない設定にすると、ARC の機能が働かなくなります。
必ず光デジタルケーブルを接続してください。(⇒ 11)

■ 小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能 (LOW VOL MODE)

本機には、小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能があります。違和感などがある場合には、下記の操作で機能を使わない設定にできます。

- ① リモコンの [サウンド] を押して「LOW VOL MODE」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「OFF」を選び、「決定」を押す

■ 3D 明瞭ボイス効果 (3D CLR DIALOG)(⇒ 16)

3D サラウンド効果と明瞭ボイス効果が合わさった機能です。お好みで、3D 明瞭ボイス効果を無効にし、ドルビーバーチャルスピーカーの効果のみで楽しむことができます。

- ① リモコンの [サウンド] を押して「3D CLR DIALOG」を選ぶ
 - ② [▲, ▼] を押して「OFF」を選び、「決定」を押す
- 電源を「切 / 入」すると、効果が「入」の状態に戻ります。

■ 自動電源オフ機能 (AUTO POWER DOWN)

入力信号がない状態で 2 時間以上操作をしなかった場合に、自動的に本機の電源を切る機能です。下記の操作で有効、無効を切り換えることができます。

- ① リモコンの [設定] を押して「AUTO POWER DOWN」を選ぶ
- ② [▲, ▼] を押して「OFF」を選び、「決定」を押す

■ エコ機能

本機には、サウンドモードが「STANDARD」または「NEWS」のときに、消費電力を抑える機能があります。

また、音量を小さくした場合も、消費電力を下げることができます（**ポリウム連動しっかりエコ**）。

ビエラリンクをお使いの場合は、番組ぴったりサウンド（⇒ 19）と連動し、比較的音量変化の少ない番組（ドラマ、バラエティ、ニュースなど）の視聴時に自動的に消費電力を抑えます。（**番組連動おまかせエコ**）

- ビエラリンク（HDMI）Ver.3 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）が必要です。

下記の操作で機能を使わない設定にできます。

- ① リモコンの[消音]と本体の[音量-]を4秒以上押したままにする
- ② 「OFF ECO」が表示される

■ 重低音で聴く（H.BASS）

重低音の効果を楽しむことができる機能です。

下記の操作で機能を使わない設定にできます。

- ① リモコンの[サウンド]を押して「H.BASS」を選ぶ
- ② [▲, ▼]を押して「OFF」を選び、[決定]を押す



お知らせ

- 操作後約20秒で通常の表示に戻ります。
 - 以下の機能を「切」にすると、本機の電源を「切/入」しても、「切」にした設定は保持されます。
 - ー ビエラリンク（HDMI）（HDAVI Control™）/ 小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能 / 自動電源オフ機能 / エコ機能（ポリウム連動しっかりエコ、番組連動おまかせエコ）/ 重低音で聴く
- 「入」の状態に戻すには、本機の設定をお買い上げ時の状態に戻してください。（⇒ 24）

故障かな！？

故障かな？と思ったら以下の項目を確かめてください。それでも直らないときや、症状が載っていないときは販売店にご相談ください。

本機の設定をお買い上げ時の状態（工場出荷設定）に戻すには

- 本機の動作がおかしいと思われる場合、一度お買い上げ時の状態に戻すと、症状が改善されることがあります。
- ① 電源「入」の状態、本体の電源ボタンを「RESET」が表示されるまで、4 秒以上押したままにする。
- ② 本体の電源ボタンを離す。
電源を切り、再度電源を入れる。
 - お買い上げ時の設定に戻ります。
 - 本機のリモコンモードが「1」に設定されます。必要に応じてリモコンモードを再設定してください。（⇒ 21）

共通

電源が入らない。

- 電源プラグがコンセントに正しく接続されていますか。（⇒ 12）

リモコンが働かない。

- 電池が消耗している場合は電池を交換してください。（⇒ 8）
- 絶縁シートを抜いてください。（⇒ 8）
- 電池を交換後、リモコンモードの再設定が必要な場合があります。（⇒ 21）
- リモコンと本機のリモコンモードが違う場合は、リモコンモードの切り換えをし、モードが変更されているか確認してください。（⇒ 21）
- リモコンが正しく動く範囲でお使いください。（⇒ 8）

本機のリモコンで、他の当社製オーディオ製品が動作してしまう。

- 本機とリモコンを、「リモコンモード 2」または、「リモコンモード 1」に設定してください。（⇒ 21）

本機の電源が自動的に切れてしまった。

- 本機では入力信号がなく、無操作状態が約 2 時間続くと、自動的に電源を切る機能があります。（オートパワーオフ）この機能を使わない設定にできます。（⇒ 22）

テレビから音声を出す設定にすると、本機の電源が切れてしまった。

- ビエラリンク（HDMI）Ver.4 以降に対応の当社製テレビ（ビエラ）と組み合わせると、こまめにオフ機能が働く場合があります。（⇒ 19）

HDMI

正常に動作しない。

- HDMI の入力端子と出力端子を間違えて接続していませんか。電源を切り、電源プラグを抜いてから接続しなおしてください。（⇒ 10 ～ 12）

ビエラリンク（HDMI）が働かなくなった。

- 接続した機器のビエラリンク（HDMI）設定を確かめてください。
- ビエラリンク（HDMI）の効果を切っていないですか。（⇒ 22）
- HDMI 機器の接続変更、停電、コンセントの抜き差しが原因の可能性があります。以下を試してみてください。
 - ー HDMI ケーブルで接続したすべての機器の電源を入れた状態で、テレビ（ビエラ）の電源を入れなおす。
 - ー テレビ（ビエラ）のビエラリンク（HDMI）の設定を一度「切」にした後、再度入れなおす。詳しくはテレビ（ビエラ）の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。
 - ー テレビ（ビエラ）と本機を HDMI ケーブルで接続してテレビ（ビエラ）の電源を入れ、そのまま本機の電源プラグを一度抜いてから接続しなおす。

HDMI 接続で、始めの数秒間の音声で再生されない。

- DVD をチャプターから再生した場合に起こることがあります。接続した映像機器のデジタル音声出力の設定をビットストリーム設定から PCM 設定にしてください。

他社製 HDMI 対応機器（テレビやブルーレイディスクレコーダーなど）との接続時に、動作が不安定になる。

- ビエラリンク（HDMI）を使わない設定にしてください。（⇒ 22）

Bluetooth®

Bluetooth® 機器が登録できない。

- Bluetooth® 機器の状態を確かめてください。
- Bluetooth® 通信使用可能距離（約 10 m）を超えていませんか。Bluetooth® 機器を本機に近づけてください。

Bluetooth® 機器と無線接続されない。

- Bluetooth® 機器が登録されていないか、Bluetooth® 機器から本機の登録情報が消去された可能性があります。登録をやり直してください。（⇒ 13）
- 本機が他の Bluetooth® 機器と接続されていませんか。他の Bluetooth® 機器の電源を切ってください。

Bluetooth® 機器と接続されているが、本機から音が出ない。

- お使いの Bluetooth® 機器によっては音声出力を本機に設定しないと音が出ません。Bluetooth® 機器に付属されている説明書などをお読みください。

音が途切れる / 音が飛ぶ / 雑音が多い。

- Bluetooth® 通信使用可能距離 (約 10 m) を超えていませんか。Bluetooth® 機器を本機に近づけてください。
- Bluetooth® 機器と本機の間に障害物がありますか。障害物を避けてください。
- 他の 2.4 GHz 帯の周波数帯を使用している機器 (電子レンジ / ワイヤレス LAN / デジタルコードレス電話など) が電波干渉している可能性があります。Bluetooth® 機器と本機を近づけ、他の干渉機器を遠ざけてください。
- 本機の通信品質が音質重視になっていませんか。「MODE 1」に設定してみてください。(⇒ 21)

ワンタッチ NFC

ワンタッチ (NFC) 接続ができない

- Bluetooth® 機器側の NFC 機能を有効にしてください。
- 再生、NFC タッチエリアに Bluetooth® 機器をタッチしてください。(⇒ 14)

音声

機器の再生を始めても音 (または映像) が出ない。

- 「消音」になっている場合、消音を解除してください。(⇒ 15)
- 機器が正しく接続されていますか。(⇒ 10 ~ 12)
- 本機で再生できるデジタル信号が確認してください。(⇒ 27)
- 本機の電源を「切 / 入」してください。
- テレビと HDMI 接続をしている場合は、テレビの HDMI 端子に「ARC 対応」と表示されているか確認してください。表示がない場合は、HDMI ケーブルに加えて光デジタルケーブルを接続してください。(⇒ 10 ~ 12)
- 当社製テレビ (ビエラ) を接続している場合、本機の電源ボタン、あるいはリモコンで本機の電源を入れると、本機から音が出ない場合があります。ビエラリンクを使用し、テレビ (ビエラ) のリモコンによる電源操作を行ってください。(⇒ 19)
- 接続経路に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちの他のケーブルで、再度接続を試みてください。
- 入力信号を正しく選択してください。

デジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。

- テレビ / レコーダーの音声出力がビットストリーム (AAC) に設定されているか確認してください。(⇒ 17)

50 を超えた音量にして電源を切ると、次回電源を入れたとき音量が 50 になってしまう。

- 本機には、過大出力を制限する「音量制限機能」があります。この機能を使わない設定にできます。(⇒ 20)

小音量時に声が強調されすぎたり、声の質に違和感があったりする。

- 本機には、小音量時にさらに声を聴き取りやすくする機能があります。違和感などがある場合には、この機能を使わない設定にできます。(⇒ 22)

音が出なくなった。電源が勝手に切れる。(本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。)

- アンプの出力異常です。音量を下げ、電源の「切 / 入」を試みてください。
- 著しく大きな音で聴いていませんか。または異常に暑い場所で使用していませんか。
⇒ 音量を下げるなどして原因を解消し、しばらく待ってから再び電源を入れてください。(保護回路の動作が解除されます。)

それでも同じ現象が起こる場合は、電源を切り、電源プラグを抜いた後、販売店にご相談ください。

地上デジタル / BS 放送の番組で始めの数秒間の音声が生再生されない。

- テレビ (ビエラ) の「デジタル音声出力」を「PCM」または「AAC」に変更してみてください。詳しくはテレビ (ビエラ) の取扱説明書、電子説明書をご覧ください。

本体画面表示

「F61」

- 本システムのアンプに異常が発生しました。
- 電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。

「F70 HDMI」

- 接続した機器のビエラリンク (HDMI) 設定を確かめてください。
- 電源を切ったあと、電源プラグを抜き差しして、再度電源を入れてください。
- 接続をやり直してください。(⇒ 10 ~ 12)

「F76」

- 電源に異常が発生しました。
- 電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にご相談ください。

仕様

総合

消費電力:	35 W
電源スタンバイ時の消費電力 (すべての接続機器の電源:「切」):	約 0.2 W

電源:	AC100 V、50/60 Hz
寸法 (幅×高さ×奥行):	700 mm × 60 mm × 365 mm
質量:	約 4.5 kg
耐荷重:	約 50 kg

動作使用条件

周囲温度:	0℃ - 40℃
相対湿度:	20% - 80% RH (結露なきこと)

アンプ部

実用最大出力合計値:	120 W (JEITA)
実用最大出力 (JEITA)	
フロント (L/R):	30 W + 30 W (同時駆動) (6 Ω、1 kHz、全高調波ひずみ率 10%)
サブウーハー:	60 W (3 Ω、100 Hz、全高調波ひずみ率 10%)

入出力端子

HDMI

本システムは、ヒエラリンク Ver.5 に対応しています。

HDMI 映像・音声入力 (BD/DVD):	1
コネクタ:	19ピン Type A 端子
HDMI 映像・音声出力 [テレビ (ARC 対応)]:	1
コネクタ:	19ピン Type A 端子

デジタル音声入力

光デジタル入力 (テレビ):	1
サンプリング周波数:	32 kHz、44.1 kHz、48 kHz 88.2 kHz、96 kHz (リニア PCM のみ)

音声フォーマット:

リニア PCM、Dolby Digital、
DTS Digital Surround、AAC

アナログ音声入力:	ピン端子 (1系統)
USB 端子:	サービス専用

スピーカー部

形式:

1 ウェイ 1 スピーカーシステム (バスレフ型)

スピーカーユニット:

フルレンジ: 3.8 cm × 9 cm コーン型 × 2

サブウーハー部

形式:

1 ウェイ 2 スピーカーシステム (バスレフ型)

スピーカーユニット:

ウーハー: 8 cm コーン型 × 2

Bluetooth® 部

バージョン:	Bluetooth® Ver. 3.0
送信出力:	Class 2
対応プロファイル:	A2DP
通信方式:	2.4 GHz band FH-SS
見通し通信距離:	約 10 m
対応コーデック:	SBC



- この仕様は、性能向上のために変更することがあります。

本機で再生できるデジタル信号


■ 音声信号

AAC	地上デジタル放送や BS 放送など
ドルビーデジタル	ブルーレイディスクや DVD など
DTS	ブルーレイディスクや DVD など
LPCM (2 チャンネル)	CD や DVD オーディオなど
LPCM (マルチチャンネル)	ブルーレイディスクや DVD オーディオなど
SBC	Bluetooth® 機器

著作権など

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
米国特許番号：5,956,674; 5,974,380; 6,487,535 の実施権、及び米国、世界各国で取得済み、または出願中のその他の特許に基づき製造されています。DTS、シンボルマークおよび DTS とシンボルマークとの複合ロゴは DTS, Inc. の登録商標です。DTS Digital Surround および DTS ロゴは DTS, Inc. の商標です。製品はソフトウェアを含みます。©DTS, Inc. 無断複写・転載を禁じます。
HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、米国およびその他の国における HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。
HDAVI Control ™ は商標です。
Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック株式会社は、これら商標を使用する許可を受けています。 他のトレードマークおよび商号は、各所有者が所有する財産です。
Google Play、Android は Google Inc. の商標です。

—このマークがある場合は—



ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークは EU 域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

お手入れ

電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をかたく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた柔らかい布で軽くふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげるおそれがありますので、使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

■ 廃棄 / 譲渡するとき

本機にはお客様の操作に関する情報が記録されています。廃棄や譲渡などで本機を手放される場合は、お買い上げ時の設定に戻して、記録された情報を必ず消去してください。

(⇒ 24, 「本機の設定をお買い上げ時の状態 (工場出荷設定) に戻すには」)

- 本機に記録される個人情報に関しては、お客様の責任で管理してください。
- 本機を廃棄する場合は、地方自治体の条例に従ってください。

困ったときは、他

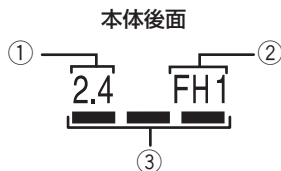
Bluetooth® 使用上のお願い

■ 使用周波数帯

内蔵無線機器は 2.4 GHz 帯の周波数帯を使用しますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に留意してご使用ください。

■ 周波数表示の見かた

周波数表示は認定銘板に記載しています。



① 2.4 GHz 帯を使用

② 変調方式が FH-SS 方式
電波干渉距離 10 m 以下

③ 2.402 GHz ~ 2.480 GHz の全帯域を使用

この機器の使用周波数帯域では、電子レンジなどの産業・科学・医療機器のほか、工場の製造ラインなどで使用される移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- ① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
- ② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の使用を停止したうえ、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置など（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- ③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：パナソニック株式会社
パナソニック お客様ご相談センター
(⇒ 裏表紙)

■ 機器認定

内蔵無線機器は、電波法に基づく技術基準適合証明を受けていますので、無線局の免許は不要です。ただし、本機に以下の行為を行うと法律で罰せられることがあります。

- 分解 / 改造する
- 本機後面にある認定銘板を消したり、はがしたりする

■ 使用制限

- 日本国内でのみ使用できます。
- すべての Bluetooth® 機能対応機器とのワイヤレス通信を保証するものではありません。
- ワイヤレス通信する Bluetooth® 機能対応機器は、The Bluetooth SIG, Inc. の定める標準規格に適合し、認証を受けている必要があります。ただし、標準規格に適合している機器であれば、一部動作する場合がありますが、機器の仕様や設定により、接続できないことがあり、操作方法・表示・動作を保証するものではありません。
- Bluetooth® 標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、使用環境および設定内容によってはセキュリティが十分でない場合があります。ワイヤレス通信時にご注意ください。
- ワイヤレス通信時に発生したデータおよび情報の漏えいについて、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 使用可能距離

見通し距離約 10 m 以内で使用してください。間に障害物や近くに干渉機器がある場合や、人が間に入った場合、周囲の環境、建物の構造によって使用可能距離は短くなります。上記の距離を保証するものではありませんのでご了承ください。

■ 他機器からの影響

- 磁場・静電気・電波障害が発生するところで使用しないでください。次の機器の付近などで使用すると、通信が途切れたり、速度が遅くなることがあります。
 - ・ 電子レンジ
 - ・ デジタルコードレス電話機
 - ・ その他 2.4 GHz 帯の電波を使用する機器の近く（ワイヤレスオーディオ機器、ゲーム機など）
 - ・ 電波が反射しやすい金属物などの近く
- 放送局などが近くにあり周囲の電波が強すぎると、正常に動作しないことがあります。

■ 用途制限

本機は一般用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途*での使用を想定して設計・製造されたものではありません。ハイセイフティ用途に使用しないでください。

* ハイセイフティ用途とは、以下のような、きわめて高度な安全性が要求され、直接生命・身体に重大な危険性を伴う用途のことをいいます。

例：原子力施設における核反応制御 / 航空機自動飛行制御 / 航空交通管制 / 大量輸送システムにおける運航制御 / 生命維持のための医療機器 / 兵器システムにおけるミサイル発射制御など

さくいん

英・数字

AGC.....	20
AUTO POWER DOWN	22
Bluetooth®	13、14
BLUETOOTH STANDBY	21
MEIRYOU VOICE	16
DIMMER.....	20
DUAL AUDIO	20
H.BASS.....	23
LINK MODE	21
LOW VOL MODE	22
SOUND MODE	17
SUBWOOFER	20
VIERA LINK	18、19、22
VOL LIMITATION	20
3D CLR DIALOG.....	16、22
3D サウンド.....	16

あ行

エコ機能.....	23
音声信号	17、20

か行

基本操作	15
工場出荷設定	24

さ行

サウンドモード	17
消音	8、15、21、23
接続.....	10、11、12、13、14

ら行

リモコン	8
リモコンモード.....	21、24

わ行

ワンタッチ (NFC)	14
-------------------	----

保証とアフターサービス (よくお読みください)

使いかた・お手入れ・修理などは

■ まず、お買い求め先へご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名			
電話	()	—	
お買い上げ日	年	月	日

修理を依頼されるときは

「故障かな!？」(⇒ 24, 25) でご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げ日と下記の内容をご連絡ください。

● 製品名	ホームシアターオーディオシステム
● 品番	SC-HTE180
● 故障の状況	できるだけ具体的に

- 保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

- 保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※ 修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	診断・修理・調整・点検などの費用
部品代	部品および補助材料代
出張料	技術者を派遣する費用


※ 補修用性能部品の保有期間 **8 年**

当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後 8 年保有しています。


■ 転居や贈答品などでお困りの場合は、次の窓口にご相談ください。

ご使用の回線（IP 電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

- 使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック お客様ご相談センター	
電話	365日 受付9時～20時
フリーダイヤル	パナは 365日
	0120-878-365
※携帯電話・PHSからご利用になれます。	

- 修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理ご相談窓口	
電話	
フリーダイヤル	パナは イイヨ
	0120-878-554
※携帯電話・PHSからご利用になれます。	
● 上記電話番号がご利用いただけない場合は、各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。	

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いたしております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

各地域の修理ご相談窓口 ※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

・地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北海道地区	
札幌 ☎(011)894-1255	札幌市厚別区厚別南 2丁目17-7
旭川 ☎(0166)22-3015	旭川市2条通16丁目1166
帯広 ☎(0155)33-8478	帯広市西20条北 2丁目23-3
函館 ☎(0138)48-6630	函館市西桔梗町589-241
東北地区	
青森 ☎(0172)62-0880	青森市浪岡大字浪岡 字稲村262-1
秋田 ☎(018)868-7008	秋田市外旭川字小谷地3-1
岩手 ☎(019)645-6130	盛岡市厨川5丁目1-43
宮城 ☎(022)387-1117	仙台市宮城野区扇町 7-4-18
山形 ☎(023)641-8100	山形市平清水1丁目1-75
福島 ☎(024)991-9308	郡山市備前館2丁目5
首都圏地区	
栃木 ☎(028)689-2555	宇都宮市上戸祭3丁目3-19
群馬 ☎(027)254-2075	前橋市箱田町325-1
茨城 ☎(029)864-8756	つくば市筑穂3丁目15-3
埼玉 ☎(048)728-8960	熊谷市宮町1丁目29番
千葉 ☎(043)208-6034	千葉市中央区末広5丁目9-5
東京 ☎(03)5477-9700	東京都杉並区本天沼 3丁目43-16
山梨 ☎(055)222-5822	中央市山之神流通団地1-5-1
神奈川 ☎(045)847-9720	横浜市戸塚区品濃町 561-4
新潟 ☎(025)286-0180	新潟市東区東明1丁目8-14
中部地区	
石川 ☎(076)280-6608	金沢市玉鉾2丁目 266番地
富山 ☎(076)424-2549	富山市根塚町1丁目1-4
福井 ☎(0776)21-0622	福井市問屋町2丁目14
長野 ☎(0263)86-9209	松本市寿北7丁目3-11
静岡 ☎(054)287-9000	静岡市駿河区高松 2丁目24-24
愛知 ☎(052)819-0225	名古屋市瑞穂区塩入町 8-10
岐阜 ☎(058)278-6720	岐阜市中鵜4丁目42
三重 ☎(059)254-5520	津市久居野村町字山神421

近畿地区	
滋賀 ☎(077)582-5021	栗東市小栴9丁目4-10
京都 ☎(075)646-2123	京都市南区上鳥羽中河原 3番地
大阪 ☎(06)7730-8888	門真市松生町1-15
奈良 ☎(0743)59-2770	大和郡山市筒井町 800番地
和歌山 ☎(073)475-2984	和歌山市栗栖373-4
兵庫 ☎(078)796-3140	神戸市須磨区弥栄台 3丁目13-4
中国地区	
鳥取 ☎(0857)26-9695	鳥取市安長295-1
米子 ☎(0859)34-2129	米子市米原4丁目2-33
松江 ☎(0852)23-1128	松江市平成町182番地14
出雲 ☎(0853)21-3133	出雲市渡橋町416
浜田 ☎(0855)22-6629	浜田市下府町327-93
岡山 ☎(086)242-6236	岡山市北区野田 3丁目20-14
広島 ☎(082)295-5011	広島市西区南観音 1丁目13-5
山口 ☎(083)973-2720	山口市小郡下郷220-1
四国地区	
香川 ☎(087)874-3110	高松市国分寺町国分 359番地3
徳島 ☎(088)624-0253	徳島市沖浜2丁目36
高知 ☎(088)834-3142	高知市仲田町2-16
愛媛 ☎(089)905-7544	愛媛県伊予郡砥部町八倉 75-1
九州地区	
福岡 ☎(092)593-8002	春日市春日公園3丁目48
佐賀 ☎(0952)26-9151	佐賀市鍋島町大字八戸 字上深町3044
長崎 ☎(095)830-1658	長崎市東町1919-1
大分 ☎(097)556-3815	大分市萩原4丁目8-35
宮崎 ☎(0985)63-1213	宮崎市本郷北方字草葉 2099-2
熊本 ☎(096)367-6067	熊本市東区健軍本町12-3
鹿児島 ☎(099)246-7050	鹿児島市上谷口町3128-3
沖縄地区	
沖縄 ☎(098)877-1207	浦添市城間4丁目23-11

所在地、電話番号は変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

最新の「各地域の修理ご相談窓口」はホームページをご活用ください。

<http://panasonic.co.jp/cs/service/area.html>

0513

会員サイト「CLUB Panasonic」で「ご愛用者登録」をしてください



<http://club.panasonic.jp/>



※このサービスは WEB 限定のサービスです。

困ったときは、他

● 使いかた・お手入れなどのご相談は・・・

パナソニック 総合お客様サポートサイト

<http://www.panasonic.com/jp/support/>

パナソニック お客様ご相談センター

電話 365日 受付9時～20時

フリーダイヤル

パナは

365日



0120-878-365

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

音声ガイドダンスを短くするには、案内が聞こえたら電話機ボタンの「87」と「130 #」を押してください。
(番号を押しても案内が続く場合は、「＊」ボタンを押してから操作してください。)

■ 上記番号がご利用いただけない場合 **06-6907-1187**

■ FAX

フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan

Tokyo (03) 3256-5444 Osaka (06) 6645-8787

Open: 9:00 - 17:30

(closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

※上記の内容は、予告なく変更する場合があります。
ご了承ください。

● 修理に関するご相談は・・・

パナソニック 修理サービスサイト

<http://club.panasonic.jp/repair/>

インターネットでのご依頼も可能です。

パナソニック 修理ご相談窓口

電話

フリーダイヤル

パナは

イイヨ



0120-878-554

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

・上記電話番号がご利用いただけない場合は、
各地域の「修理ご相談窓口」におかけください。

● パナソニックスマートアプリの使いかたなどのご相談は・・・

パナソニック スマートアプリのご紹介サイト

<http://panasonic.jp/pss/ap/>

パソコン、スマートフォンのどちらからでもご覧になれます。

スマートフォンを使った

タッチアクセス・無線アクセス機能で相談窓口

電話

フリーダイヤル

365日 受付9時～20時

パナは

ハチサンニ



0120-878-832

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ご使用の回線 (IP 電話やひかり電話など) によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。
本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

愛情点検

長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!



こんな症状は
ありませんか

- ・煙が出たり、異常なおいや音ができる
- ・映像や音が出ないことがある
- ・内部に水や異物が入った
- ・本体に変形や破損した部分がある
- ・その他の異常や故障がある



ご使用
中止

故障や事故防止のため、
電源を切り、コンセントから
電源プラグを抜いて、
必ず販売店に点検をご相談
ください。

パナソニック株式会社 ホームエンターテイメント事業部

〒571-8504 大阪府門真市松生町1番15号